

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 19 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520607

研究課題名(和文)複合的多読授業の研究：フィンランド式教育法に基づくアクティビティの開発

研究課題名(英文) Multiple Approaches to Extensive Reading: Development of Activities Based on Instructional Methodology Used in Finland

研究代表者

草薙 優加 (Kusanagi, Yuka)

群馬大学・大学教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：50350335

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、フィンランドの教育法に注目し、停滞しがちな英語多読を活性化する複合的なアクティビティの効果測定を試みた。フィンランド式教育方法に基づく多読アクティビティを導入した授業と、その他のアクティビティを導入した授業の比較調査を行った。前者は後者に比べ読書量や読後の内容理解で上回ったものの、統計的に有意とは判定できなかった。しかし、前者は、記憶と思考整理に作用して、読者がより主体的で創造的に読む手助けとなった。このような読みをもたらすアクティビティの体験は、多読への関心、読むことへの関心の向上、あるいは動機づけに寄与することが分かった。

研究成果の概要(英文)：This study aims to design effective activities to encourage EFL learners' extensive reading (ER) by adapting Finnish instructional methodology. The results of comparative studies show that ER instruction with activities based on Finnish instructional methodology excelled over ER instruction with regular reading and comprehension activities although the results were not statistically significant. In addition, the former instruction enabled learners to engage in reading more positively and creatively because it tapped into their ability to organize and retain information. Therefore this type of reading experience may influence learners' interests and motivation in ER as well as reading in general.

研究分野：英語教育

 キーワード：英語、多読指導法、多読アクティビティ、読書アクティビティ、フィンランド式教育法、自律的学習  
協同学習

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、多読は学習者の英語運用能力低下対策への有効性、特に英語への苦手意識の克服やリーディング能力の向上に効果があるとされ英語教育界で大きな注目を浴びている。多読とは、学習者の自主性を尊重し、読者自身が読みたい本を選んで読むこと、楽しみのための読書をすることが、その中心的活動であり (Day & Bamford, 1998)、Krashen (1985) のインプット仮説を裏づけにしている。つまり、自分のレベルにあった英語で書かれた本を大量に読み、大量のインプットを得ることによってその効果が得られるとされる。しかし、実際には学習者が一定期間、持続的に英語での大量の読書を実践するにはしばしば困難が伴う。本研究グループメンバーは、長年多読を大学の英語授業に導入する中、上記の問題点に直面した。この問題を打破するために、さまざまな授業内アクティビティを導入してきたが、アクティビティが読書の活性化に寄与するのか、どのようなアクティビティの、どの要素が学習者の読書量と英語力の向上に寄与するのかまでは明らかにできなかった。そこで、読解力だけでなく、自ら学ぶ力を養成するとされ「フィンランド・メソッド」とも呼ばれ、近年注目されている(北川, 2005; 田中, 2010)フィンランドの教育法に着目するに至った。

### 2. 研究の目的

上述の背景をもとに、本研究では、読解力だけでなく、自ら学ぶ力を養成するフィンランドの教育法に注目し多読を活性化させる複合的なアクティビティを開発すること、最終的に、学習者の英語学習への動機付けを高め、英語能力を向上させる多読アクティビティを教育関係者に発信することを目指した。

### 3. 研究の方法

本研究は、以下の4ステップを踏んで行った。

(1) 基礎調査: 本研究メンバーの先行研究を含め、これまで実践されてきた多読への動機づけを高める方法を再検証するとともに、読解力向上をはじめとして教育効果が高いとされるフィンランドの教育法について文献研究、訪問実態調査を行い、日本の大学英語教育の場で実施する多読に適した教授法、アクティビティを探った。

(2) 授業実施案の作成: ステップ1での検証結果を受けて、フィンランドの教育法の優れた点を応用し、反映させた多読アクティビティの設定を行った。具体的には、フィンランドでカルタと呼ばれる思考整理法やワールドカフェとして知られるディスカッション形式の学び、そして自律的な学習を促す定期的な振り返りの実施である。このような要素を取り入れた多読授業が、読書量、英語力の向上、そして学習意欲の向上に実際に寄与するか検証するため、フィンランド教育法に基

づくアクティビティを導入した授業(実験群)と、その他のアクティビティを導入した授業(統制群)の2種類の授業を設定し、その効果を比較することとした。

(3) 実験授業の実施: ステップ2で作成した授業計画をもとに、本研究メンバーが所属する3大学で1年間にわたり多読実験授業を行い、客観テスト、アンケート、授業時の課題等の量的データ、質的データを収集した。

(4) 分析と成果発表: 実験授業の効果を主に客観テスト、アンケート、授業時の課題等の量的および質的データを用いて分析し考察を行った。

### 4. 研究成果

(1) フィンランド視察調査(授業観察): 基礎調査として、フィンランド式教育法の実態の一端を探るために2012年8月にフィンランド、トゥルク市のルオスタリヴォリ中学校・高等学校において、4名の教員が教授する9つの英語授業を観察し記録した。限られた期間の視察であったこともあり、いわゆる「フィンランド・メソッド」と呼ばれる定型の授業を観察することはできなかった。現地校の複数の教員、および教育交流のため現地校に長期滞在した日本人教員への聞き取り調査から、例えば、授業の目的に応じてマッピング(紙の中心にキー・コンセプトとなる文字、視覚情報を記し、それを基点に放射状に関連のある情報を加える視覚化された記録、「思考の地図」、「カルタ」とも呼ばれる)などを使うことがあり、フィンランドで広く認知されているアクティビティの一つであることが確認できたが、いわゆる日本での出版物等で報告されているような、マッピング等のアクティビティの多用を特徴とする「フィンランド・メソッド」がフィンランド教育の典型例であるというのは一部誇張があると判断された。また、教授方法や授業形態は極めてオーソドックスなもので、日本での授業と目立った差はなく、英語力向上の「秘策」は特に観察されなかった。一方、生徒たちの自律的態度が際立っていた点が注目された。

(2) フィンランド視察調査(学習者アンケート): 授業観察に加えて、日本人の学生とフィンランドの生徒の特性を比較するために、英語読書と英語学習に関するアンケート調査(5尺度リカート方式)を実施した。英語の重要性や英語学習ニーズ、英語多読に関する結果は概ね類似していたが、英語に対する親しみといった情意に関する質問項目においては顕著な違いが見られた。教室で観察された生徒の自律的姿勢の一端は、英語学習に対する動機付けの高さと推測され、アクティビティ選定に際し、単に教育活動だけを取り入れるのではなく、自律的学習態度を育成する指導方法や教育環境を整える必要がある

と理解された。

(3) フィンランド視察調査(マッピング実践者への面談調査): フィンランド教育におけるマッピングの位置づけを確認するために、ビジネス分野での専門書多読にマッピングを援用している Turku University of Applied Sciences のティモ・リノッスオ氏に1時間半のインタビューを行った。その結果、マッピング使用は以下の教育効果を期待できることが明らかになった。マッピングは、学習者が自ら学びたいと思わせる仕掛けとして有効である、テキスト理解を表層レベルから深層レベルまで深めることが可能である、読み手の記憶に残るような読書体験を促すため、その後の読書意欲や習慣に影響を及ぼす。また、これらの教育効果はマッピングだけでなく、ワールドカフェと呼ばれるディスカッション方法によっても期待できることが分かった。この聞き取り調査によって、唯一無二の方法ではないにせよ、マッピングは学習者の思考力や探求力を高め、自らが考えを学んで身につける手立てになると判断した。

(4) 実験授業の実施: フィンランド視察調査で得た知見をもとに、実験群(マッピング、ワールドカフェ、振り返り活動等、学習者の自律性促進が期待されるアクティビティを導入した授業)と、統制群(前者のアクティビティを導入しない授業)を比較した。その結果、明らかになったことは、教員らが、フィンランド視察を踏まえて導入した多読活性化のためのアクティビティをもってしても、読書量の増進や英語力の向上は一朝一夕には得られないということである。実験群の読書量、及び客観テストによって測定した読後の英語スコアは、統制群を上回ったものの、その差は、統計的に有意とは判定できなかった。一方で、学習者アンケートの5尺度の質問および自由記述コメントの分析から、「すべり読み」と言われる表面的な読みに陥りがちな多読も、読書活性化のためのアクティビティ導入により、実験群は統制群に比べ、読んだ内容に対する記憶を長く保持し、読んだことに対する思考の整理ができ、より深い読みの過程を経ることが示された。また、読書と協同的アクティビティを結びつけることで、より主体的かつ創造的な読書、表現力やコミュニケーション力を身につける契機となる読書体験、さらにはこのような肯定的な体験が、多読への関心、読む行為への関心、読むことへの動機づけに寄与することが分かった。

(5) 本研究の成果と今後の課題: 第一に、フィンランド・メソッドの代名詞とも言えるマインドマップは、思考の整理や、より深い読みの導く手助けとして役立つ。しかし、多読そのものを促進する波及効果は統計的に有意

差が表れるほど顕著なものではなかった。今後は、マインドマップをより分かりやすく指導するための改善を行い、多読への効果をさらに検証する必要がある。第二に、ワールドカフェという形式のディスカッションは、授業内多読アクティビティのうち、学習者から最も高評価を得た。読書をより創造的にし、コミュニケーション能力を身につける契機となる上、協同学習の観点からも有用なアクティビティと位置づけられた。今後、さらにこのような複合的な価値を持つ読書活性化のためのアクティビティの開発と選定を続ける必要がある。第三に、学習者による多読やアクティビティに対する定期的な振り返りは、多読継続にプラスの作用をもたらした。しかし、その効果を最大限に引き出すには、振り返り方法と実施時期に関して、より詳細な研究が必要である。

#### <引用文献>

Day, R., & Bamford, J. (1998). *Extensive reading in the second language classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.

Krashen, S. (1985). *The input hypothesis: Issues and implications*. New York, NY: Longman.

北川達夫、2005、*図解フィンランド・メソッド入門*、経済界

田中博之、2010、*フィンランドメソッド「超読解力」- 6つのステップで伸びる「言葉の力」*、経済界

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### [雑誌論文](計9件)

草薙 優加、英語多読に取り組む理系大学生の日英読書習慣と態度、日本国際表現学会オンラインジャーナル、査読有、第2号、1巻、2016、51-63

[http://jaila.org/journal/articles/vol002\\_2016/j002\\_2016\\_051\\_a.pdf](http://jaila.org/journal/articles/vol002_2016/j002_2016_051_a.pdf)

深谷 素子、草薙 優加、小林 めぐみ、"World Café"による教育現場での読書体験の共有、第87回大会 Proceedings (日本英文学会) 査読なし、1巻、2015、145-146

草薙 優加、深谷 素子、英語の本を読んで World Café、日本国際教養学会第4回大会プロシーディングス、査読なし、1巻、2015、1-3

<http://jaila.org/activity/taikai20150314/proceedings20150314/jaila-proc-004-06-20150314.pdf>

草薙 優加、深谷 素子、小林めぐみ、英語多読教育におけるマインドマップの効果と課題、日本国際教養学会オンラインジャーナル、査読有、第1号、1巻、

2015、38-49

[http://jaila.org/journal/articles/vol001\\_2015/j001\\_2015\\_038\\_a.pdf](http://jaila.org/journal/articles/vol001_2015/j001_2015_038_a.pdf)

深谷 素子、The effect of reading guidance in an extensive reading program、鶴見大学紀要、査読有、第 52 号、第 2 部外国語・外国文学編、2014、81-110

深谷 素子、草薙 優加、小林 めぐみ、多読活性化のためにフィンランド教育から学ぶ：マインドマップ実践報告を中心に、日本国際教養学会第 3 回大会プロシーディングス、査読有、1 巻、2014、1-3

<http://jaila.org/activity/taikai20140316/proceedings20140316/jaila-proc-003-15-20140316.pdf>

小林 めぐみ、深谷 素子、草薙 優加、フィンランド英語授業視察記 - 授業観察・参加者調査を通して -、成蹊大学一般教育報告書、査読なし、第 48 号、3 巻、2014、1-18

小林 めぐみ、深谷 素子、草薙 優加、フィンランド教育におけるマッピングの位置づけと多読指導への示唆：マッピング実践者へのインタビューに基づく一考察、慶應義塾大学外国語教育研究、査読有、第 10 号、1 巻、2014、43-65

倉林 秀男、関戸 冬彦、深谷 素子、アメリカ文学の作品を教育にどう活かすか その方法論を巡って、杏林大学研究報告教養部門、査読なし、第 32 巻、2013、75-87

[学会発表](計 13 件)

草薙 優加、読書を共有する、群馬大学外国語教育センター・多読シンポジウム、2016 年 3 月 7 日「群馬大学(群馬県桐生市)」

Kusanagi, Y. Crossing the international border: Utilizing picture books in the EFL classrooms、The 7th Annual Liberlit Conference、2016 年 2 月 22 日「東京女子大学(東京都杉並区)」

草薙 優加、Literary reading circles and short essay activities for English learning among medical students、Literature and Language Learning - 文学を用いた英語教育最前線(文学を用いた英語教授法研究会) 2015 年 11 月 28 日、「京都大学(京都府京都市)」

深谷 素子、The use of a literary text in an extensive reading programme: Reading Murakami's "Super-Frog Saves Tokyo" in the World Cafe、Literature and Language Learning - 文学を用いた英語教育最前線(文学を用いた英語教授法研究会) 2015 年 11 月 28 日、「京都大学(京都府京都市)」

草薙 優加、深谷 素子、英語の本を読んで World Cafe、日本国際教養学会第 4 回大会、2015 年 3 月 14 日、「岡山大学(岡山県岡山市)」

深谷 素子、多読入門講座：多読を英語授業に活かすいくつかの試み、成城大学文芸学部英文学科主催：アクティブ・ラーニング勉強会、2014 年 11 月 20 日、「成城大学(東京都世田谷区)」

Kobayashi, M. Kusanagi, Y. Fukaya, M. The effects of goal-setting and self-reflections on extensive reading、ER Seminar 2014、「恵泉女学園大学(東京都多摩市)」、2014 年 9 月 28 日

草薙 優加、多読教育におけるマッピングの導入 - 自律的読者の育成を目指して、大学英語教育学会第 53 回国際大会、「県立広島大学(広島県広島市)」、2014 年 8 月 29 日

草薙 優加、深谷 素子、小林めぐみ、「World Cafe」による教育現場での読書体験の共有、日本英文学会関東支部第 9 回大会、2014 年 6 月 22 日、「成城大学(東京都世田谷区)」

深谷 素子、草薙 優加、小林 めぐみ、多読活性化のためにフィンランド教育から学ぶ：マインドマップ実践報告を中心に、日本国際教養学会第 3 回大会、2014 年 3 月 16 日、「慶應義塾大学(神奈川県横浜市)」

深谷 素子、多読授業内でアメリカ文学を読む、日本アメリカ文学会第 52 回全国大会、2013 年 10 月 13 日、「明治学院大学(東京都港区)」

Fukaya, M. The effect of reading guidance in an ER program. JALT 2012、2012 年 10 月 13 日、「アクトシティ浜松(静岡県浜松市)」

小林めぐみ、大学英語教育における多読の現状と課題、成蹊大学経済学部同窓会講演会、2012 年 11 月 20 日、「成蹊大学(東京都武蔵野市)」

[図書](計 1 件)

Kusanagi, Y. Fukaya, M. Literature and language learning in the EFL classroom、2015、212-228、260-279.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

草薙 優加 (KUSANAGI, Yuka)

群馬大学・大学教育 学生支援機構・准教授

研究者番号：50350335

(2) 研究分担者

小林めぐみ (KOBAYASHI, Megumi)

成蹊大学・経済学部・准教授

研究者番号：50339587

(3)研究分担者

深谷素子 (FUKAYA, Motoko)

鶴見大学・文学部・准教授

研究者番号：40468616